博士学位論文審査要旨

２０２３年１２月２０日

論 文 題 目：　シェヘラザード効果――未完結事象が関係形成への動機づけに及ぼす影響とその性差に関する検討――

学位申請者：　小野　由莉花

審 査 委 員：

主　査：　心理学研究科　教授　神山　貴弥

副　査：　心理学研究科　教授　及川　昌典

副　査：　奈良大学社会学部　教授　村上　史朗

要　　旨：

恋愛についての心理学研究は、既に形成された異性愛者のカップルを対象としたものが多く、性別を超えて、親密な関係形成について説明できる一般的な理論は少ない。現代社会においては、恋愛に関する価値観や親密な関係性のあり方は多様化してきており、性別や性的志向性の違いを超えて、人々がどのように親密な関係の形成へと動機づけられるのかを明らかにすることは重要な課題である。そのような背景のもと、本論文は、未完結事象に対する情報探索への動機づけが、恋愛関係の形成に関わる一般的な心理過程として働く可能性について検討するものである。より具体的には、未完結事象が親密な関係形成への動機づけを高める現象、シェヘラザード効果を新たに提案し、そのメカニズムについて検討するための一連の実証研究が行われている。

第１章では、恋愛に関するこれまでの研究を概観し、親密な関係形成への動機づけを導く一般的な心理過程を明らかにすることの重要性について議論が展開され、シェヘラザード効果が提案されている。第２章では、未完結事象によって関心が高まることが確認されている(研究 1-1)。また、未完結事象に伴う感情は、後続の無関連な他者への反応へと誤帰属されることが示唆されている(研究 1-2)。第３章では、シェヘラザード効果の性差について検証したシナリオ実験(研究 2-1)、並びに現場実験(研究 2-2)の結果が示されている。対人文脈における未完結事象は、男性においてはポジティブ感情を生じさせるが、女性においてはネガティブ感情を生じさせることが確認された。しかし、未完結事象は情報探索を導くことで、女性においても関係形成への動機づけを高めることが示唆された。第４章では、シェヘラザード効果がポジティブな予期に基づく情報探索への動機づけによって生じる可能性を検証した実験の結果が示されている(研究 3)。ポジティブな予期に基づく情報探索に動機づけられることで、親密な関係形成に積極的な男性だけでなく、より慎重な態度をとる女性においても、関係形成へと動機づけられることが示唆された。第５章では、総合考察として、一連の研究の知見を整理するとともに、シェヘラザード効果が生じる背景メカニズム、並びにその理論的・応用的な示唆について考察されている。

以上のように、本論文は、既に形成された異性愛者のカップルを対象としたこれまでの研究の限界を指摘し、より一般的な心理過程を明らかにすることの重要性を実証的に主張するものであり、関係形成に関する研究の理論的発展に貢献するものである。同時に、人々が心理的な障壁を乗り越えて結びつきを深めるプロセスを明らかにすることは、多様化する関係の質やコミュニケーションを向上させるものであり、社会的な価値も認められる。よって、本論文は、博士（心理学）（同志社大学）の学位を授与するにふさわしいものであると認められる。

総合試験結果の要旨

２０２３年１２月２０日

論 文 題 目：　シェヘラザード効果――未完結事象が関係形成への動機づけに及ぼす影響とその性差に関する検討――

学位申請者：　小野　由莉花

審 査 委 員：
　主　査：　心理学研究科　教授　神山　貴弥
　副　査：　心理学研究科　教授　及川　昌典
　副　査：　奈良大学社会学部　教授　村上　史朗

要　　旨：

上記審査委員３名は、2023 年 12 月 20 日（水）午前 12 時 20 分より 40 分間に及ぶ博士学位論文公聴会の後、午後１時より１時間にわたって、学位申請者に対する総合試験を行った。

学位申請者は、提出した論文に関する審査委員からの専門的質疑に対して、適切な説明と応答を行い、本論文の学術的価値を証明した。また、申請者は本研究の基礎となる社会心理学領域について、広範な専門的知識を持ち合わせていることが確認された。

語学試験（英語）については、論文における文献引用で数多くの英語論文が網羅されていることに加え、その研究内容の理解や引用方法も正確かつ適切であることが確認でき、学位申請者が研究に必要な英語運用能力を十分に有していると判断した。よって、総合試験の結果は合格であると認める。

博 士 学 位 論 文 要 旨
Abstract of Doctoral Dissertation

論 文 題 目： シェヘラザード効果――未完結事象が関係形成への動機づけに及ぼす影響とその性差に関する検討――
Title of Doctoral Dissertation

氏 名： 小野 由莉花
Name

要 旨：
Abstract

恋愛は文化や年代を超えて観察される普遍的な現象であり(Karandashev, 2023)，個人の幸福感や社会的な評価に関わる重要な人間関係である(松井, 1993)。しかし，これまでの恋愛研究の多くは，既に形成された異性愛者のカップルが対象とされてきた。性別や性的指向性を超えて，関係が形成される初期段階に焦点を当て，人々がどのように親密な関係の形成へと動機づけられるのかを検討した研究は少ない(Aron et al., 2008)。人々が情緒的な結びつきを深め，親密な関係の形成へと動機づけられる要因を明らかにすることは，多様化する恋愛に関するコミュニケーションや関係の質を向上させるために重要な課題である(Eastwick, Finkel et al., 2019)。

本研究では，未完結事象が親密な関係形成への動機づけを高める現象として「シェヘラザード効果」を新たに提案し，その背景メカニズムについて探索的に検討することを目的とした。恋愛に代表される親密な他者関係と，より一般的な関係は，特定の他者に対する注意の高まりと持続によって区別されると考えられる(e.g., Rubin, 1970; Tennov, 1998)。このような注意の高まりと持続は，未完結事象によって生じることが知られている(Zeigarnik, 1938)。人は状況の予測や統制を得ることに対する強い欲求をもつため，未完結感は潜在的な脅威として知覚される(Berger & Calabrese, 1974; Brashers, 2001)。そのため，人は未完結事象に持続的な注意を向け(Marsh et al., 1998; Wilson & Gilbert, 2008)，未完結事象を完結させるために情報探索に動機づけられる(Bauer et al., 2022; Summerfeldt, 2004)。このような，未完結感がもたらす注意の高まりや持続は，他者への関心を導くことで，親密な関係形成のきっかけとなる可能性が指摘されている(Knobloch & Miller, 2008; Knobloch et al., 2007)。

本研究では，シェヘラザード効果が生じる背景メカニズムを探索的に検討することを目的とした，一連の実証研究を行った。シェヘラザード効果，すなわち，未完結事象が親密な関係形成への動機づけを高める現象が生じる背景には，未完結事象に伴うポジティブな感情が他者への反応に誤帰属される，という感情の誤帰属，あるいは，未完結事象を完結させようとする情報探索への動機づけが他者に対する関心を導く，という情報探索のふたつの可能性が考えられる。

シェヘラザード効果の背景メカニズムとして考えられるひとつの要因は，未完結事象に伴うポジティブな感情が，他者への反応へと誤帰属される，という感情の誤帰属である。未完結事象に対する注意の持続は，未完結事象によって生じる感情の持続を導くことが知られている(Wilson & Gilbert, 2008)。ある刺激によって生じた感情反応は，後続の無関連な刺激に対する反応に影響を及ぼすことが知られている(Payne et al., 2005)。そのため，ポジティブな感情を伴う未完結事象は，後続の対人認知においてポジティブな印象形成を導き，関係形成への動機づけを促すことが予測された。

もうひとつの可能性は，未完結事象を完結させるための情報探索が，後続の対人認知における他者への関心や情報探索を導くことである。未完結感を解消するためには，情報探索が重要な役割を果たす。対人場面における情報探索は，関係形成を促すことが指摘されている(Knobloch &

Miller, 2008)。情報探索には，新たな知識を求めるポジティブな予期に基づいて生じる関心経路(Litman, 2005)と，安全を求めるネガティブな予期に基づいて生じる警戒経路(Bennett et al., 2016)があることが指摘されている(Jach et al., 2022)。ポジティブな予期に基づく関心経路を通じた情報探索は，対人認知において他者に関する情報を積極的に求め，関係形成への動機づけを促進することで，シェヘラザード効果が生じる可能性が考えられた。

さらに，本研究では関係形成における性差についても検討を行った。異性関係の形成においては，性役割期待(Cameron & Curry, 2020)や，生物学的基盤における性差(Galperin & Haselton, 2013)が影響を及ぼすことが指摘されている。男性には異性関係の形成，発展において主導権をもつことが期待され，交配の機会を逃さないことが、子孫を残す上で重要な戦略となる。そのため，男性は親密な関係形成に動機づけられやすく，シェヘラザード効果が生じやすい可能性が考えられた。一方で，女性は異性関係において受動的であることが期待され，配偶者や子に長期的に養育する意思がある相手を慎重に選択することが，子孫を残す上で重要となる。そのため，女性は関係形成に対する警戒が高く，シェヘラザード効果が生じにくい可能性が考えられた。

まず，未完結事象が注意の持続や他者に対する関心の高まりを導くことを確認する実証研究を行った(研究 1-1)。予測に整合して，結末が明かされないような未完結ストーリーを読むと，完結ストーリーを読んだ場合よりも，ストーリーの作者に対する関心が高まることが確認された。しかし，予測された注意の持続は確認されなかった。続いて，未完結事象に伴う感情が，無関連な他者に対する反応に誤帰属される可能性を検討した(研究 1-2)。ネガティブ感情を伴う未完結ストーリーを読むと，無関連な他者に対する関心が高まり，対人評価がネガティブに歪められる，という感情の誤帰属が示唆された。一方で，特定の感情を伴わないようなニュートラルな未完結ストーリーを読んだ後では，無関連な他者に対する関心の高まりは認められなかった。これらの結果から，未完結事象が無関連な他者に対する関心を高めるためには，未完結事象に対してある程度の強さの注意が払われる必要があることが示唆された。

続いて，未完結事象がもたらす感情と，関係形成への動機づけの性差に関する検討を行なった。研究 2-1 では，初対面の学生から意図が不明確なメッセージカードを受け取る，という自己関与の高い未完結事象を用いて，感情とメッセージの送り手に対する関係形成への動機づけについて検討した。恋愛を連想させる手がかりが存在する場合，社会的な性役割期待や生物学的なバイアスが活性化されることで，男性はポジティブな感情を高めるが，女性は警戒を高める，という性差が生じることが予測された。さらに，シェヘラザード効果が生じる背景メカニズムが感情の誤帰属によるものであれば，親密な関係形成にも性差が生じる，つまり，男性においては関係形成への動機づけが高められるが，女性は関係形成に動機づけられない可能性が予測された。一方で，シェヘラザード効果が生じる背景メカニズムが情報探索によるものであるならば，性別や恋愛関係を連想させる手がかりの有無に関わらず，未完結事象が情報探索を導くことで，関係形成への動機づけが高められることが予測された。その結果，未完結事象に対して男性はポジティブな感情を高めるが女性は警戒を高める，という予測に整合する性差が認められた。また，このような性差や恋愛を連想させる手がかりの有無に関わらず，意図が不明確なメッセージカードを受け取った場合，男性も女性もメッセージの送り手との関係形成への動機づけが高められていた。さらに，関係形成への動機づけとメッセージカードに対する情報探索の程度には正の相関が認められた。これらの結果から，シェヘラザード効果が生じる背景メカニズムとして，情報探索への動機づけが働いている可能性が示唆された。一方で，予測された注意の持続は確認されず，情報探索への動機づけと注意の持続が独立している可能性が考えられた。研究 2-2 では男性を対象に，実際の現場において研究 2-1 の結果を再現することを試みたが，いずれの結果も再現されなかった。

最後に，トリビア・クイズ課題を用いて，未完結事象に対する情報探索が関係形成への動機づけを高める可能性に関する検討を行った。情報探索が生じる経路には，関心を満たすためのポジティブな予期に基づく関心経路と，安全を求めるためのネガティブな予期に基づく警戒経路のふたつがあることが知られている。トリビア・クイズのような，ポジティブな予期に基づく情報探

索を活性化させる未完結事象は，人を情報探索に動機づけることで，トリビア・クイズとは無関連な他者との関係形成への動機づけを高めることが予測された。また，関係形成におけるリスクやコストの性差から，男性は女性よりも関係形成に動機づけられやすいこと，女性は相手の恋愛関心が推測できる場合のみ，関係形成への動機づけが高まることが予測された。実験の結果，男性は女性よりも異性との関係形成への動機づけが高い，という予測に整合する性差が確認された。また，参加者の性別や相手の恋愛関心が推測できる程度に関わらず，ポジティブな予期に基づく情報探索をもたらす未完結事象は，無関連な他者との関係形成への動機づけを高めることが示唆された。

一連の実証研究の結果，シェヘラザード効果が生じる背景メカニズムには，未完結事象を完結させるための情報探索に動機づけられることが重要な役割を果たしている可能性が示唆された。親密な関係形成を警戒する女性においても，未完結事象によって親密な関係形成への動機づけが高められる可能性が示唆されたことは，本研究の重要な知見である。シェヘラザード効果の背景メカニズムにおける注意の役割やシェヘラザード効果の一般化可能性，関係の段階における未完結事象の影響，個人の特性や関係の多様性を加味した検討は，今後の重要な課題として残された。